

府中学園視察アンケート結果

●施設一体型の小中一貫教育に期待すること（ソフト面）

保護者

- ・ 中一ギャップの緩和・解消
- ・ 小学生は中学生をお手本に，中学生は小学生のお手本になれるように，お互いよい刺激になればいい。
- ・ 今よりも多くの人と接する機会を得ることによって，協力して何かをしたり，競い合う相手も増え，子どもたちに良い刺激になる。
- ・ 小学生と中学生の交流が日常的にあれば中学へ進んだ時のギャップも少なく，子どもも親も不安が少なくなる。
- ・ 異学年が交流することで小中別の学校より子供の成長に期待できる。
- ・ 中学生は多感な時期に，小さい小学生とふれ合う機会があるのは，とても良い。思いやりや支え合いなどを学んでもらいたい。

地域関係者

- ・ 9年間を通じて，知，徳，体をバランスよく育てる。
- ・ ストレス対応力や環境変化適応力などの生きる力を育むことも必要と思う。

学校関係者

- ・ 上の学年の姿を身近に見ながら下の学年が育つ，下の学年に配慮することで上の学年が育つ，児童・生徒がお互いを意識して育つ学校になると良い。
- ・ 異学年交流による非認知能力の育成
- ・ 学び（指導）の連続性

その他

- ・ 小1から中3までの幅のある年齢の子ども達が，体育会や文化祭（学芸会）などの学校行事を協力して実行できること
- ・ 地域との積極的な交流
- ・ 教育方針の明確化

●施設一体型小中一貫教育校の施設整備に関して要望したいこと

保護者

- ・みんなに優しいバリアフリーの作り
- ・明るくあたたかみのある作り
- ・地域の方との交流ができる施設
- ・小中で一緒に利用する教室や設備ができると思うが、お互いの活動がやりにくくなったり、気を遣わなくてはいけなくなったりしないように注意も必要だと思った。
- ・おしゃれで変わった学校を建設するより、修繕しやすい設備を作っていただきたい。

地域関係者

- ・環境負荷低減など取り入れてほしい。

学校関係者

- ・小中の児童・生徒が自然と交流できる空間。
- ・児童又は生徒の動線や活動に無理が生じないように配慮してほしい。
- ・シンプルでゆったりとした（広めの）教室
- ・児童・生徒の動線を考えた構造
- ・収納スペースや多目的教室

その他

- ・成長に合わせた施設計画
- ・メンテナンス性への配慮
- ・児童・生徒だけでなく、先生や地域の方（お客様含む）の動線計画を明確に行うこと
- ・教育方針にあった施設計画
- ・コンセプトや方針をかなえるための施設計画となってほしい。

例えば特別支援に力をいれている笠岡市は「全ての子どものための学校」としてインクルーシブ教育のための施設を作る、「誰一人取り残さない教育」

＝一人ひとりにあわせられる学習の場をつくる等

- ・全ての子どもに居場所がある学校 ⇒ 笠岡市の独自性を出せる

●府中学園を視察し、金浦中学校ブロックの施設整備で取り入れたいと思ったこと

保護者

- ・ イベントができるスペース
- ・ 音楽室のような専門教科の教室や各学年の扉の視覚的に分かりやすいデザイン
- ・ 広い図書室
- ・ 教室以外につくえやイスを置けるスペース
- ・ 集会ができる広いろう下等，活用方法がいろいろある空間がある所が良いと思った。
- ・ 小学校中学年のオープンな教室

地域関係者

- ・ オープンスペース，総合メディアなど

学校関係者

- ・ 学年の近くにある学年で集まって活用できる空間
- ・ 雨天時でも活動できる場所（軒下）
- ・ 空間がゆったりしている図書室
- ・ エレベーターの設置
- ・ 長期にわたり，飽きのこない壁の色やデザイン
- ・ 2つ（複数）の体育館や集会スペース

その他

- ・ 「余白」を持たせた平面計画
- ・ 明確なゾーニング計画
- ・ 低学年のワークスペース＝笠岡市の幼小連携を活かしていくためにも小学校1、2年生の教室環境は個別対応が可能な空間計画が望まれる。
- ・ オープンスペースはこれから先の ICT などの教育内容に適しているが空間を使いこなすための教員研修が必要である。施設の計画段階から教員が参画するなどの方法が必要と考える。

●その他感想

保護者

- ・府中学園は小中学生がきちんとスペースを分けられていながらも、共有スペースで交流ができることがいい環境だと思った。
- ・中庭や木々もとても安らぐすてきな場所だと思った。しかしそれを維持していくのが金額的にも大変だとうかがったので、将来のことを考えていかないといけないと思った。
- ・今回の視察を通して、壁のない教室や職員室、反対に壁が高くなっている1・2年の教室、中学生は自分の教室がないなど、今までの学校のイメージとは違うものが見ることができ、驚くことばかりだった。子どもたちの学校生活が充実したものになるよう施設が整備されていくことを期待する。保護者としては、小中学生それぞれの過ごし方があり、放課後小学生が学校へあそびに来ると中学生が部活をできなくなったりするので利用の方法も考えていかなければならないと思う。行動時間のちがう小学生と中学生がうまく共生できるような学校になるといいなと思う。保護者は建設についてよりも、そこで子どもがどのように過ごすことになるのかという不安や心配が多いと思う。視察をしていて、1・2年は参観日でどこから見るの？と思ったり、これだけ広い土地だと草とりは誰がやるの？という疑問が出てきた。
- ・今回の見学では、見たこともない様なおしゃれで斬新な学校だったので、びっくりした。しかし、自分が学生だったらと想像しながら歩いていると、ワクワクした学校生活がおくれそうだなと感じた。また中学生と小学生と一緒に生活している様子を見ていると、見学前に不安に思っていた大きい子が小さい子につめたくすることもなく、小中一貫校も良いなと思えた。この度は貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

地域関係者

- ・笠岡市の計画では、小学校だけ建てるのか、中学校も含めて考えているのか知りたいところです。

学校関係者

なし

その他

- ・府中学園を見学して、笠岡に作る学校はどうかと考えた。笠岡市の特徴をだすことが必要と感じた。笠岡市は地域との関係を学校に取り入れることを目指してはどうか。コミュニティスクールは多くの地域で取り組みがあるが、実際の学校教育とのリンクは少ない。地域の活動の場を学校内に設ける、授業のサポーターの拠点を学校内につくるなど、地域とのかかわりをつくれる学校となれば良いと思う。